

泌尿器科卒後臨床研修カリキュラム

1、 泌尿器科における研修目標

泌尿器科臨床医としてプライマリーケアを担える力量を身につける。病める人の心と身体を癒し、生活の質の向上を目指し、エビデンスに基づいた医療を行う。そしてよりよい医師—患者関係の構築のもとに将来の医師としてあるべき人格を涵養する。

2、 泌尿器科における行動目標

(1) 臨床に求められる基本的な臨床能力を身につける。患者の問題点を把握し、情報を収集して、適切な評価を行い、患者への適応を判断できる問題対応能力を身につける。

(2) 患者の有する問題を全人的（身体的、精神的、社会的側面）に理解することを身につける。

(3) 患者および家族との望ましい人間関係を確立しようと努める態度を身につけ、インフォームド・コンセントを実施できるようにする。

(4) チーム医療の意義を理解し、その一員として、医療に関わる多くの人と連携を保ち、協同して診療にあたる姿勢を身につける。

(5) 医療の安全管理に対する知識と意識を身につける。

(6) 医療の社会的側面（医療保険制度、医の倫理、生命倫理、医薬品や医療用具による健康被害など）を理解し、行動できるようにする。

3、 泌尿器科における経験目標

研修期間で特に理解を深めておきたい症状として1、血尿、2、膿尿、3、疼痛、4、仮性無尿、5、尿閉を含めた排尿異常などがある。疾患としては尿路性器腫瘍（特に前立腺癌）、尿路結石、尿路感染症、尿路外傷、尿路性器奇形と泌尿器科救急疾患の理解を深め、診断・治療ができる能力を身につけたい。

(1) 外来では、新患者の医療面接、身体診察、基本的検査の実施、診断、データ解釈、治療計画の立案を行えるようにする。身体診察では通常の診察にくわえて泌尿器科特有のものである男女の外性器の診察、直腸診と前立腺マッサージを行えるようにする。

(2) 泌尿器科医としての診察・治療を行ううえで、最低限必要な検査手技（検尿、超音波検査、尿流量測定、導尿、カテーテル留置、経皮・経直腸生検手技、膀胱鏡検査、膀胱生検手技、膀胱穿刺、腎瘻造設など）を行えるようにする。

(3) 症候や身体所見、尿所見より必要な画像検査を選択・施行し、読影ができる能力を身につける。

(4) 入院受け持ち患者で、医療面接、身体診察、基本的検査、画像検査の実施、診断、得られたデータの解釈、治療計画の立案を行えるようにする。

(5) 泌尿器科手術の基本手技を身につける

	7:30	8:30	9:00	午後	2:30	5:00
月		抄読会	外来		教授回診	術後検討会
火		手術	外来	手術		
水	症例カンファレンス		外来			
木		手術	外来			
金			外来	手術		術後検討会

火曜日は密封小線源治療、腎移植外来あり。最低週一回指導医の下で、外来で新患患者の診察を行う。また救急患者が来院した時は指導医のもとでこの診察治療を担当する。

5、泌尿器科学会の認定指導医は、新家、上門、鈴木、萩野、稲垣、柑本、であるが、臨床経験3年目以上の医師は研修医の指導が可能と考えています。